

2020年3月6日

声明文

東芝機械取引先持株会
会員 96 社一同

私たち東芝機械取引先持株会（以下、本会）は、本日、株式会社シティインデックスイレブンス（以下、シティインデックスイレブンス）による東芝機械株式会社（以下、東芝機械）の普通株式に対する公開買い付けには応募しないことを、本会会員 96 社の総意として決議いたしました。

本会は東芝機械と継続的な取引関係のある企業及び会員相互間の緊密化をはかり、会員の資産内容充実の一助とするため、会員が一定資金を継続的に拠出することにより、東芝機械の株式の取得を容易ならしめることを目的として 1990 年に設立されました。

現在は東芝機械と取引を継続する地元静岡県をはじめ、全国の 96 社で構成されており、来る本年 3 月 27 日に開催予定の臨時株主総会の基準日（本年 2 月 15 日）時点で、東芝機械の普通株式 500,700 株、東芝機械が発行するすべての普通株式のうち 1.67%を保有しています。

つまり、東芝機械の取締役会が果たしていく、東芝機械のすべてのステークホルダーの共同利益の実現は、本会および本会会員企業の利益の実現と不可分な関係にあります。

シティインデックスイレブンは、投資家の村上世彰氏の強い影響下にあるとされ、今回の公開買い付けが成功すれば、村上氏のグループによる東芝機械の普通株式の保有割合が最大で 43%に達し、実質的に東芝機械の経営を握ることになります。しかし、公開買い付け届出書によると、買い付け後の経営方針については「現経営陣との対話を通して、自己株取得等といった方法による不必要と考えられる内部留保の解消により、対象者の株主価値の向上が図られると考えております」などと株主還元を訴える内容にとどまり、何ら具体的な東芝機械の経営方針が示されておられません。

これに比べて、東芝機械の経営陣はこのほど、2023 年度に売上高 1350 億円、営業利益率 8%、ROE8.5%の達成を目指す経営改革プランを発表し、総額 300 億円規模の成長投資と M&A 戦略を中心に大規模な構造改革も進めていく方針を示しました。経営陣からは不撤退の決意で実現していく覚悟も示されております。

したがいまして、本会としては、東芝機械の経営改革プランこそが、会社の中長期的な持続的成長を促し、株主だけでなく、本会および本会会員企業を含む、東芝機械のすべてのステークホルダーの共同利益の実現につながっていくものと認識しておりますが、シティインデックスイレブンスによる公開買い付けが成功した場合には、上記の経営改革プランの実現が阻害され、結果として、東芝機械はもちろんのこと、本会および本会会員企業の利益をも損なわれる事態になりかねないと危惧しております。

したがって、本会は会員企業 96 社の総意として、シティインデックスイレブンスによる公開買い付けには応募しないことを決定いたしました。

以上